

在セネガル日本国大使館月報

2022年8月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 4日、選挙管理委員会は、7月31日の国民議会選挙の暫定結果を発表し、与党連合が82議席、野党連合が80議席となり、史上初めて、与党連合が絶対多数を得られない状況となった。各々一議席を獲得した三諸派がキャスティング・ボートを握った。(4日 Africanews)
- 11日、国民議会で一議席を有する諸派BGGのジョップ元国民議会議長は、与党連合側につくことを表明し、与党連合側が同議会で多数派を維持できる見通しとなった。(11日 RTS)

(外政)

- 15日、サル大統領はAU議長としてマリを訪問し、ゴイタ暫定大統領と会談した。主な議題は、平和維持活動中に拘束されたコートジボワール人兵士49名の釈放とみられる。その後、チャド及びガボンを訪問。(15日 Jeune Afrique等)

(日本関係)

- 27日、岸田総理は、チュニジアでのTICAD8に際し、サル・セネガル大統領と首脳テレビ会談を行った。(27日 外務省HP)
- TICAD8において、サル大統領は、日本企業に投資を呼び掛けた。日本は3年間で官民総額300億ドルを拠出することを約束した。サル大統領は、西サハラ問題によるモロッコの欠席に遺憾を表明した(29日 Le Soleil)

ガーボベルデ

- 18日、カーボベルデ外務省は、モロッコ首都ラバトへの在モロッコ大使館の設置と「ダハラ領事館」(西サハラ)の設置を発表し、両国関係の強化を目指す旨説明した(18日 LUSA)
- 27日、チュニジアでのTICAD8に際し、林外務大臣は、コレイア・エ・シルヴァ首相を表敬し、水産業、農業、再生エネルギー等の分野に取り組んでいくことで一致した。(27日 外務省HP)

ガンビア

- 11日のガンビア当局発表によれば、7月の洪水被害は少なくとも11名の死者と5000名の避難民の被害を出し、ここ50年で最悪の被害となった。(12日 Africanews)
- 27日～28日、バロウ大統領は、TICAD8に出席し、アフリカの課題をチャンスに変えることの重要性、特に若者を中心に、環境に配慮した経済活動に取り込んでいくことの必要性を強調した。(28日 大統領府プレスリリース)

ギニアビサウ

- 4日、エンバロ・ギニアビサウ大統領(ECOWAS議長国)は、ビサウで自らの仲介によるセネガル南部のカザマンス和平の合意文書の署名を発表した。(4日 LUSA)
- 26日、エンバロ大統領は、TICAD8に出席するためチュニジアに到着したが、27日、「西サハラ」関係者が参加に反発したモロッコに同調し、会合を退席した。(26日 LUSA等)

- ・文中の「コロナ」とは特別な記載がない限り、「新型コロナウイルス」のことを指すこととする。
- ・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 4日、選挙管理委員会は、7月31日の国民議会選挙の暫定結果を発表し、与党連合が82議席、野党連合が80議席となり、史上初めて、与党連合が、絶対多数を得られない状況となった。各々一議席を獲得した三諸派がキャスティング・ボートを握った。(4日 Africanews等)
- 主要行政機関の一つの地方高等評議会(HCCT)の選挙(4日)では、野党連合が反対のため欠席を表明する旨表明した。(11日 L'Observateur)
- 11日、野党連合は、国民議会の選挙結果を受け入れることを表明、他方、地方高等評議会(HCCT)の選挙(4日)は、引き続き欠席する旨表明した。(11日 Africanews)
- 11日、国民議会で一議席を有する諸派BGGのジョップ元国民議会議長は、与党連合側につくことを表明し、与党連合側が、同議会で多数派を維持できる見通しとなった。(11日 RTS)
- 18日、ソコPASTEF党首は、2024年2月の大統領選挙への立候補を正式に表明し、内政面ではダンテック病院の改修計画を、外交面では旧植民地の仏等の政策、対マリ政策を批判し、自身の立候補を阻むものとして改めて批判した(18日 Africanews)
- 24日、サル大統領は、大統領令に署名し、次期国民議会は、9月12日に招集されることとなった。(25日 LeSoleil)

(外政)

二国間関連

- 4日、エンバロ・ギニアビサウ大統領(ECOWAS議長国)は、ビサウで自らの仲介によるセネガル南部のカザマンズの和平合意文書の署名を発表した。(4日 LUSA)
- 11日、モハメッド国連副事務総長は、サル大統領(AU議長)と会談し、気候変動、移行期のアフリカ諸国等の国際課題について意見交換した。(11日 Le Soleil)
- 米国は、ウクライナ情勢で被害を受ける国(20か国のうち16か国がアフリカ)への支援対象国の一つとしてセネガルを選定する予定。食糧のバリューチェーンの改善等を内容とする。(12日 LeSoleil)
- 15日、サル大統領はAU議長としてマリを訪問し、ゴイタ暫定大統領と会談した。主な議題は、平和維持活動中に拘束されたコートジボワール人兵士49名の釈放とみられる。その後、チャド及びガボンを訪問予定。(15日 Jeune Afrique等)
- 16日、サル大統領は、チャドを訪問し、デビー・イトゥノ大統領と会談した。チャド側は移行期におけるセネガル側の協力に感謝した。(17日 Le Soleil)
- 16日、米務省の代表団は、セネガル政府及び西アフリカ諸国中央銀行などの関係者と意見交換し、欧米諸国による対ロシア制裁の効果について評価しつつ、食糧や肥料の流通についての問題について指摘した。(17日 LeSoleil)

- 17日、サル大統領は、ガボンを訪問し、名誉招待者として62回目の独立記念日式典に参加した。(17日 APS)
- 18日、王毅国務委員・外交部長は、2021年末に期限を迎えたアフリカ17か国向けの23件の債務案件を無効にすると発表した。(24日 LeSoleil)

国際情勢・国連機関支援等

- 2日、ECOWAS、AUとOIF(仏語圏国際機関)は記者会見し、7月31日の国民議会選挙が円滑に実施されたことを賛辞した。(3日 LeSoleil)
- サル・セネガル大統領(AU議長国)とエンバロ・ギニアビサウ大統領(ECOWAS議長国)は、ゼレンスキー大統領からの招待を受けているが、ウクライナ訪問決定には至っていないと見られている。(8日 RFI)
- 25日、サル大統領は、第5回中国アフリカ報道協力フォーラム(北京)にメッセージを寄せ、報道がより正当で公平なものとなる世界的秩序(NOMIC)の重要性を改めて訴えた。(26日 LeSoleil)
- タル外務大臣は、セネガルのAU議長就任6か月の機会に記者ブリーフを行い、マリ、サヘル地域等の紛争仲介や債務救済等の経済施策、医薬品生産、ウクライナ情勢を踏まえた食糧供給等に取り組む旨、改めて述べた。(26日 LeQuotidien)
- 31日、タル外相は、国連西アフリカサヘル事務所(UNOWAS)等の20周年に祝意を表明し、同地域の紛争解決に向けた事務所の活動を評価した。(31日 LeSoleil)
- 31日、サル大統領は、トゥーレ新ECOWAS委員長と及びサレ国連西アフリカサヘル事務所長とそれぞれ会談し、セネガルとの協力や地域の平和と安定について意見交換した。(31日 RTS)

日本関連

- 4日、日本政府は、コル・セック国務大臣を、日・セネガル両国間関係の促進に寄与したとして外務大臣表彰することを発表した。(4日 APS)
- 25日、伊澤在セネガル日本大使は、セネガル環境・持続的な開発大臣との間で、気候変動分野での二国間クレジット制度(JCM)構築に関する二国間文書に署名した。(25日 RTS等)
- 26日、サル大統領は、第8回アフリカ開発会議に出席するため、チュニジアに到着し、サイド・チュニジア大統領等の出迎えを受け、日本の国際協力銀行総裁の表敬を受けた。(26日 RTS、Twitter)
- 27日、岸田総理は、チュニジアでのTICAD8に際し、サル・セネガル大統領と首脳テレビ会談を行った。(27日 外務省HP)
- TICAD8において、サル大統領は、日本企業に投資を呼び掛けた。日本は3年間で官民総額300億ドルを拠出することを約束した。サル大統領は、西サハラ問題によるモロッコの欠席に遺憾を表明した(29日 LeSoleil)
- TICAD8において、サリク・エナジー社と三菱商事は肥料用アンモニアと尿素の生産における協力に向け協力することで合意した。(29日 LeSoleil)

(経済)

経済一般

- 2022年、西アフリカ経済通貨同盟(UEMOA)は6月の域内のインフレ率を年率換算で7.5%とした。食糧品、住宅、運輸での上昇が顕著としている。またイスラム新年(8日夜)を前に市場価格が更に高騰している。(5日 SudQuotidien)
- 西アフリカ諸国中央銀行(BECAO)によれば、西アフリカ通貨同盟(UEMOA)圏内の物価上昇率は6月に年率で7.5%となり、5月の6.8%よりも悪化している。(11日 L'Observateur)
- 18日、国立人口統計局が発表した6月の貿易統計によれば、小麦、石油等の価格の上昇とドル高による貿易収支が悪化した。(19日 L'Observateur)

(社会)

- 5日、セネガル各地で豪雨による洪水が発生した。ダカール市内では1名が死亡し、セネガル内務省は国家緊急事態対応計画を発動した。(6日 RFI)
- 5日にダカールを中心に発生した洪水による死者は、最終的に三名と発表された。セネガル水利公社は、ティエス市で、排水施設に土のうを放置し、洪水を発生させたとして、容疑者を特定せずに提訴した。(6日 RFI)
- 23日、セネガル保健省によれば、クリミア・コンゴ出血熱の死亡症例が北部ポドール市で初めて確認された。(23日 APS)

カーボベルデ

- 3日、米国の国連大使は、食糧安全保障の現状視察のため、カーボベルデを含むアフリカ三か国を視察するため出発した。中露外相のアフリカ訪問に対抗したとの見方もある。(4日 Africanews)
- 7日、カーボベルデを訪問中の米国の国連大使は、同国を含め各国がウクライナ情勢による食糧危機に直面している旨述べ、また、アフリカ諸国の議席の拡大を含む国連安保理改革の必要性を改めて訴えた。カーボベルデ側は、国連人権理事会選挙への立候補を検討している旨述べた。(8日 RFI及び7日 LUSA)
- 5月の政府の財政報告書によれば、2022年にカーボベルデの公的債務はGDPの1.8%に及び、債務残高はGDPの149.6%に及ぶとの見通しが示された。(8日 LUSA)
- 12日、国連食糧農業機関等の国連機関は、ウクライナ情勢や干ばつ被害による食糧危機の対策として65万米ドルの供与を決定した。(12日 LUSA)
- 17日、財務省の集計によれば、カーボベルデが供与された無償資金協力は、前年同月比で32%減少し、政府の想定を大きく下回った。(17日 LUSA)
- 18日、カーボベルデ外務省は、モロッコ首都ラバトへの在モロッコ大使館の設置と「ダハラ領事館」(西サハラ)の設置を発表し、両国関係の強化を目指す旨説明した。(18日 LUSA)
- 27日、チュニジアでのTICAD8に際し、林外務大臣は、コレイア・エ・シルヴァ・カーボベルデ共和国首相を表敬し、水産業、農業、再生エネルギー等の分野に取り組んでいくことで一致した。(27日 外務省HP)
- 29日、バティスタ・デ・ソウザ病院によれば、カーボベルデのサンビンセント島で、サル痘の疑い症例が二例生じた。(29日 RFI)

ガンビア

- アフリカ開発基金(AfDF)理事会は、ガンビアのコメのバリューチェーンの改善のためのプロジェクトへの350万ドルの追加支援を承認した。(1日 The Point)
- 28日、ガンビアのWHO所長は、全世界的にコロナ感染が拡大しており、ワクチン接種率が低いガンビアは特に懸念される旨説明した。また、中国、インド、UAE等による約22万ドルの医療機材供与があった旨説明した。(2日 The Point)
- 11日のガンビア当局発表によれば、7月の洪水被害は少なくとも11名の死者と5000名の避難民の被害を出し、ここ50年で最悪の被害となった。(12日 Africanews)
- 17日、ガンビア農業省は、世銀の支援を受けた総額5600万ドルの「包括的で強靱な農業バリューチェーン計画」(GIRAV)を発表した。(18日 The Point)
- 23日、ガンビア保健省は、WHOと先週、協議を行い、2024年-25年の予算の優先課題を検討し、ポストコロナの課題、財政支援の必要性等を訴えた。(23日、The Point)
- 27日~28日、バロウ大統領は、TICAD8に出席し、アフリカの課題をチャンスに変えることの重要性、特に若者を中心に、環境に配慮した経済活動に取り込んでいくことの必要性を強調した。(28日 大統領府プレスリリース)
- バロウ大統領は、TICAD8に際し、エザコンワ国連開発計画(UNDP)総裁補兼アフリカ地域局長と会談し、ガンビアの開発政策上のパートナーシップの強化等について議論した。(30日 The Standard)
- 31日、ガンビアのダンパ貿易省次官は世界貿易機関(WTO)について、研修等で利益を得ているとして分担金を支払う旨表明した。(31日 The Point)

ギニアビサウ

- 4日、エンバロ・ギニアビサウ大統領(ECOWAS議長国)は、ビサウで自らの仲介によるセネガル南部のカザマンス和平の合意文書の署名を発表した。(4日 LUSA)
- 5日、ギニアビサウ最大野党のPAIGCの幹部会は、差し止めが解除されたことを受け、8月19日~21日に第10回党大会を開催することを決定した。(6日 RFI)
- 6日、エンバロ大統領は、コートジボワールの独立62周年式典ECOWAS議長の立場で特別ゲストとして参加した。同大統領がウワタラ大統領の三選を批判し悪化した両国関係に改善が見られた。(6日 RFI)
- 16日、ナビウム首相は、政府としては、困難があるとしても12月18日に予定されている国民議会選挙を予定どおり開催するとの意思を改めて表明した。
- 19日からの野党PAIGC党大会に際し、治安部隊は、同党本部への通行を禁止し、ペレイラ同党党首はこれを批判した。(19日 RFI)
- カーボベルデの与党PAICVは、コミュニケを発表し、政府によりギニアビサウにおいて野党PAIGCの総会が延期に追い込まれた状況に懸念を表明した。(23日 RFI)
- 26日、エンバロ大統領は、TICAD8に出席するためチュニジアに到着したが、27日、「西サハラ」関係者が参加に反発したモロッコに同調し、会合を退席した。(26日 LUSA等)

- 29日、エンバロ大統領は、アルジェリアを訪問し、テブン大統領と「西アフリカ」問題で同問題を協議する等バランサーの役割を見せた。(31日 WalfQuotidien)

(注)本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)